



## 2023年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年9月30日

上場会社名 ヤマシタヘルスケアホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9265 URL <https://www.yhchd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 執行役員 社長 (氏名) 山下 尚登  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 (氏名) 北野 幸文 (TEL) 092-402-2922  
 四半期報告書提出予定日 2022年10月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年5月期第1四半期の連結業績(2022年6月1日~2022年8月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年5月期第1四半期	13,471	4.5	259	28.5	274	24.3	165	14.5
2022年5月期第1四半期	12,885	—	202	206.3	221	165.9	144	184.3

(注) 包括利益 2023年5月期第1四半期 240百万円(46.7%) 2022年5月期第1四半期 163百万円(43.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年5月期第1四半期	64.70	—
2022年5月期第1四半期	56.52	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首より適用しております。2022年5月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、売上高については対前年同四半期増減率を記載しておりません。なお、従来の方法によった場合、前第1四半期連結累計期間の売上高の対前年同四半期増減率は7.9%増となります。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年5月期第1四半期	23,016	8,036	34.8
2022年5月期	24,086	8,005	33.1

(参考) 自己資本 2023年5月期第1四半期 8,013百万円 2022年5月期 7,980百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年5月期	—	0.00	—	82.00	82.00
2023年5月期	—	—	—	—	—
2023年5月期(予想)	—	0.00	—	46.00	46.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年5月期の連結業績予想(2022年6月1日~2023年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,117	△3.7	525	△43.6	566	△43.5	395	△43.2	154.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年5月期1Q	2,553,000株	2022年5月期	2,553,000株
2023年5月期1Q	114株	2022年5月期	114株
2023年5月期1Q	2,552,886株	2022年5月期1Q	2,552,886株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2022年6月1日～2022年8月31日）におけるわが国の状況は、5月下旬より6月にかけては新型コロナウイルスによる感染第6波が終息するかに思われましたが、7月には第7波が発生し、8月には1日当たり25万人を超える新規感染者が記録される状況がみられた一方、従来型の行動規制は行わないといった政府方針など社会経済活動との両立を図る動きもみられました。また、終息の見えないロシアによるウクライナ進攻情勢や、米国をはじめとした利上げの動き、円安などの影響によるエネルギー資源や原材料の高騰が継続し、依然として先行きは極めて不透明な状況が続いております。

当社グループが属する医療業界におきましては、本年4月には診療報酬改定が実施され、社会保障の枠組みとしての医療提供体制の変革が継続的に図られています。そのような中各医療機関では、新型コロナウイルス感染症の影響に対して一旦復調傾向がみられたものの、罹患者の再拡大により医療供給体制がひっ迫し、手術数や外来・入院患者数を抑制せざるを得ない施設もみられるなど、長引く感染の状況に医療機関は難しい対応を継続しております。

医療機器業界におきましては、同診療報酬改定による医療材料償還価格の引き下げや資源・原材料価格の高騰など環境悪化要因が増大する中、各企業には医療機関のニーズや経営改善・業務効率向上に資する製品・サービスの提供に加え、コスト削減による医業収益向上への寄与が尚一層求められています。

このような状況の中、当社グループでは、コロナ禍において営業活動に一定の制約はあるものの、グループの事業会社6社それぞれが、許容される範囲で各々の営業活動を行ってまいりました。取引先医療機関においては、各診療科で延期されていた症例の実施、検査や診断の増加による医療需要の回復がみられていましたが、その後の感染再拡大により一部再停滞がみられています。こうした中、当社グループの中核事業である医療機器販売業では、コロナ対策補助金による医療機関の設備投資が継続したことや前期末に発生していた半導体不足の影響が緩和し、納期が遅延していた製品の入荷販売が進んだことなどにより、内視鏡関連製品等の低侵襲治療機器備品や放射線治療機器、超音波診断装置などの診断機器備品が伸長したことに加え、新型コロナ検査試薬やPPE（個人防護具）の消費継続や、検査・手術件数の回復による診療材料の売り上げ増加などにより前年同期比プラス成長となり、当社グループの販売実績は好調に推移しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は134億71百万円（前年同四半期比4.5%増）となりました。利益面につきましては、売上増加による売上総利益の増加により、営業利益は2億59百万円（前年同四半期比28.5%増）、経常利益は2億74百万円（前年同四半期比24.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億65百万円（前年同四半期比14.5%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。なお、各セグメントの売上高はセグメント内の内部売上高を含んでおります。

#### ① 医療機器販売業

医療機器販売業のうち一般機器分野では、一般医療機器備品やMRI、CT等の画像診断機器や放射線診断装置及び超音波診断装置の売上により14億35百万円（前年同四半期比6.7%減）となりました。一般消耗品分野では、汎用消耗品、感染対策消耗品及び手術関連消耗品の売上により58億99百万円（前年同四半期比1.9%増）となりました。内視鏡、サージカル、循環器等により構成される低侵襲治療分野では、電子内視鏡手術システム等の内視鏡備品や、腹腔鏡システム等のサージカル備品、血管内治療、内視鏡関連消耗品の売上により34億11百万円（前年同四半期比12.8%増）となりました。整形、理化学、眼科、皮膚・形成、透析により構成される専門分野では、PCR検査装置関連製品やレーザー治療機器等の皮膚・形成備品の売上により24億28百万円（前年同四半期比11.1%増）となりました。医療情報、設備、医療環境等により構成される情報・サービス分野では、設備保守メンテナンスの売上により2億70百万円（前年同四半期比8.5%減）となりました。

この結果、医療機器販売業の売上高は134億46百万円（前年同四半期比4.8%増）、セグメント利益は4億87百万円（前年同四半期比20.6%増）となりました。

医療機器販売業の売上高は次のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	前第1四半期連結累計期間		当第1四半期連結累計期間		増減額	前年同期比 (%)
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)		
一般機器分野	1,539	12.0	1,435	10.7	△103	△6.7
一般消耗品分野	5,790	45.1	5,899	43.9	109	1.9
低侵襲治療分野	3,023	23.6	3,411	25.3	388	12.8
専門分野	2,186	17.0	2,428	18.1	241	11.1
情報・サービス分野	295	2.3	270	2.0	△25	△8.5
小計	12,835	100.0	13,446	100.0	611	4.8

### ② 医療機器製造・販売業

医療機器製造・販売業におきましては、主としてグループ開発製品である整形外科用インプラントを製造・販売しており、売上高は71百万円（前年同四半期比1.3%減）、セグメント利益は5百万円（前年同四半期比3.1%減）となりました。

### ③ 医療モール事業

医療モール事業におきましては、主として賃料収入により売上高は16百万円（前年同四半期比0.1%増）、セグメント利益は0百万円（前年同四半期比87.4%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は230億16百万円となり、前連結会計年度末に比べて10億70百万円減少いたしました。流動資産は、主に現金及び預金の減少により、前連結会計年度末に比べて11億36百万円減少し、176億56百万円となりました。固定資産は、前連結会計年度末に比べて65百万円増加し、53億59百万円となりました。

### (負債及び純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、電子記録債務の減少等により、前連結会計年度末に比べて11億1百万円減少し、149億79百万円となりました。また、純資産は、前連結会計年度末に比べて31百万円増加し、80億36百万円となり、自己資本比率は34.8%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月期の連結業績予想につきましては、2022年7月14日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,975	1,466
受取手形、売掛金及び契約資産	11,906	13,018
商品	2,683	2,884
その他	245	305
貸倒引当金	△17	△18
流動資産合計	18,793	17,656
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,645	3,645
減価償却累計額	△1,980	△2,009
建物及び構築物（純額）	1,665	1,636
土地	1,649	1,649
その他	823	820
減価償却累計額	△675	△681
その他（純額）	148	139
有形固定資産合計	3,463	3,425
無形固定資産		
のれん	70	66
その他	70	65
無形固定資産合計	140	132
投資その他の資産		
投資有価証券	1,149	1,251
その他	542	552
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	1,689	1,802
固定資産合計	5,293	5,359
資産合計	24,086	23,016

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,896	8,557
電子記録債務	6,006	5,054
未払法人税等	127	10
賞与引当金	635	98
その他	889	630
流動負債合計	15,555	14,352
固定負債		
退職給付に係る負債	237	230
その他	287	397
固定負債合計	525	627
負債合計	16,081	14,979
純資産の部		
株主資本		
資本金	494	494
資本剰余金	627	627
利益剰余金	6,296	6,252
自己株式	△0	△0
株主資本合計	7,417	7,373
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	651	722
退職給付に係る調整累計額	△88	△83
その他の包括利益累計額合計	562	639
非支配株主持分	24	22
純資産合計	8,005	8,036
負債純資産合計	24,086	23,016

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
売上高	12,885	13,471
売上原価	11,171	11,625
売上総利益	1,713	1,846
販売費及び一般管理費	1,511	1,586
営業利益	202	259
営業外収益		
受取利息及び配当金	4	5
仕入割引	3	3
持分法による投資利益	1	-
受取手数料	5	6
その他	5	2
営業外収益合計	21	17
営業外費用		
支払利息	1	0
手形売却損	1	1
その他	0	0
営業外費用合計	2	2
経常利益	221	274
特別利益		
条件付対価受入益	4	6
特別利益合計	4	6
税金等調整前四半期純利益	225	281
法人税、住民税及び事業税	6	11
法人税等調整額	74	106
法人税等合計	81	118
四半期純利益	144	163
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益	144	165



四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
四半期純利益	144	163
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	71
退職給付に係る調整額	0	5
その他の包括利益合計	19	77
四半期包括利益	163	240
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	163	242
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年6月1日至2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医療機器 販売業	医療機器 製造・販売業	医療モール 事業	計		
売上高						
一般機器分野	1,539	—	—	1,539	—	1,539
一般消耗品分野	5,790	—	—	5,790	—	5,790
低侵襲治療分野	3,023	—	—	3,023	—	3,023
専門分野	2,186	—	—	2,186	—	2,186
情報・サービス分野	295	—	—	295	—	295
その他	—	72	—	72	—	72
内部売上高	△38	—	—	△38	△0	△38
顧客との契約から生じる 収益	12,796	72	—	12,869	△0	12,869
その他の収益	—	—	16	16	—	16
外部顧客への売上高	12,796	72	16	12,885	—	12,885
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	0	—	0	△0	—
計	12,796	72	16	12,885	△0	12,885
セグメント利益	404	5	1	411	△208	202

(注)1. セグメント利益の調整額△208百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△205百万円、棚卸資産の調整額△0百万円、のれん償却額△3百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2022年6月1日 至 2022年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医療機器 販売業	医療機器 製造・販売業	医療モール 事業	計		
売上高						
一般機器分野	1,435	—	—	1,435	—	1,435
一般消耗品分野	5,899	—	—	5,899	—	5,899
低侵襲治療分野	3,411	—	—	3,411	—	3,411
専門分野	2,428	—	—	2,428	—	2,428
情報・サービス分野	270	—	—	270	—	270
その他	—	71	—	71	—	71
内部売上高	△50	—	—	△50	△11	△62
顧客との契約から生じる 収益	13,395	71	—	13,466	△11	13,455
その他の収益	—	—	16	16	—	16
外部顧客への売上高	13,383	71	16	13,471	—	13,471
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11	0	—	11	△11	—
計	13,395	71	16	13,483	△11	13,471
セグメント利益	487	5	0	493	△233	259

(注) 1. セグメント利益の調整額△233百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△230百万円、棚卸資産の調整額△0百万円、のれん償却額△3百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。